

能楽

ユネスコ無形文化遺産
UNESCO
Intangible Cultural Heritage

鑑賞教室

令和8年
6月23日火 - 27日土

午前の部 11時開演 (終演予定午後1時頃)
午後の部 2時開演 (終演予定午後4時頃)

主催 独立行政法人日本芸術文化振興会

解説 能楽のたのしみ
狂言 仏師 野村万蔵ほか
能 葵上 観世喜正ほか

能「葵上」観世喜正 撮影 杉田裕之

国立能楽堂

国立能楽堂

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
TEL.03-3423-1331(代)
https://www.ntj.jac.go.jp/nou.html

国立能楽堂は全席ファーストクラス

日本で初めてパーソナルタイプの字幕システムを取り入れ、日本語・英語の2チャンネルで詞章と解説を表示。タッチパネル方式で操作方法も簡単です。初めて能楽をご覧になるお客様にも分かりやすいよう、鑑賞をサポートします。



学校・団体のお申込み

料金：学校団体(全席)1,600円
一般団体(正面)3,600円/(脇正面)3,100円/(中正面)2,500円

プログラム無料配布 お申込人数：10名様以上 定員：627名
※中学生・高校生35名につき、引率の先生1名が無料です。お申込み時には引率の先生を含めた総人数をお知らせください。チケット代金は総人数から無料分を差し引いた金額をご請求いたします。

電話予約開始：〔学校団体〕令和7年12月1日(月)
〔一般団体〕令和7年12月2日(火)

※12月1日の学校団体の申込みで売切の場合がございます。あらかじめご了承ください。

国立能楽堂営業係 03-3423-1331〔代表〕(午前9時30分～午後6時)

申込締切及び人数の確定日：令和8年4月6日(月)

お支払期限：令和8年5月15日(金)

チケット引渡日：令和8年5月28日(木)・29日(金)

※お支払いの確認後、チケットとプログラムをお送りいたします。

個人のお申込み

料金：正面 4,000円/脇正面 3,400円/中正面 2,800円
学生(全席)1,600円

プログラム無料配布

※インターネットでも学生料金・障害者割引(2割引)による申し込みが可能です(他の割引との併用不可)。車椅子などの詳細についてはチケットセンターまでお問い合わせください。

予約開始：令和8年5月10日(日)午前10時

※国立能楽堂チケット売場窓口・自動発券機は国立能楽堂主催公演日^(※)のみの営業(午前10時～午後6時)です。

*販売開始は電話・インターネット予約開始日の翌日以降

※窓口販売用に別枠での座席のお取り置きはございません。

※能楽鑑賞教室は、学生・生徒の団体鑑賞を目的とした公演ですので、お席をお取りできない場合がございます。あらかじめご了承ください。

〔電話〕国立劇場チケットセンター(午前10時～午後6時)

0570-07-9900/03-3230-3000〔一部IP電話等〕

〔インターネット〕国立劇場チケットセンター

令和8年10月30日(金)には、外国人のための能楽鑑賞教室を開催予定です。詳細はホームページ等でご確認ください。



国立能楽堂
オリジナルキャラクター
はんにゃちゃん



JR(中央・総武線)千駄ヶ谷駅(エレベーター・エスカレーターあり)下車・徒歩5分
都営地下鉄(大江戸線)国立競技場駅下車 A4出口(エスカレーターあり)徒歩5分
東京メトロ(副都心線)北参道駅下車 出口1(エレベーター・エスカレーターあり)または2(エスカレーターあり)徒歩7分
都バス早81(渋谷一早大正門)/黒77(目黒-千駄ヶ谷駅前)千駄ヶ谷駅前下車・徒歩5分
ハチ公バス神宮の杜ルート国立能楽堂下車すぐ

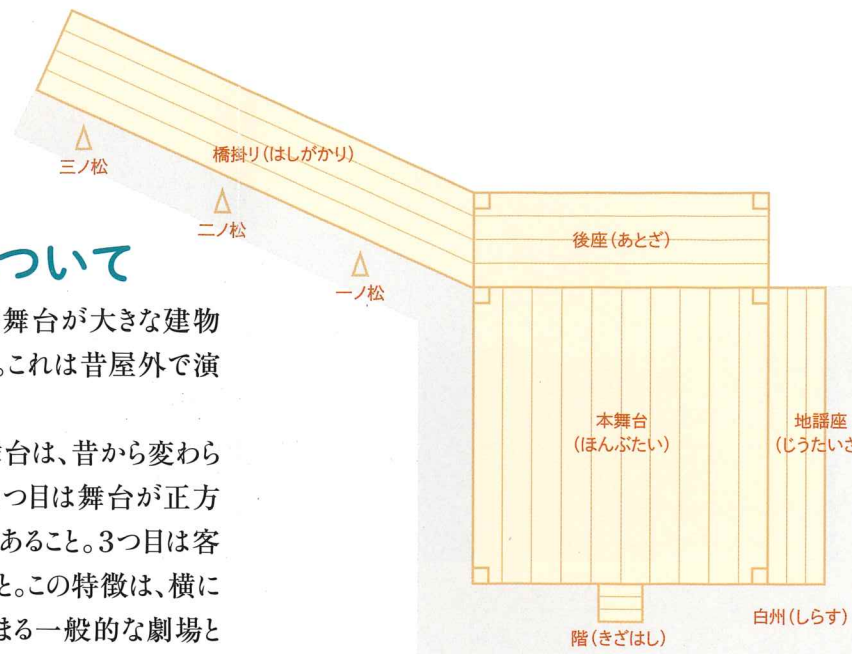
◆ 能楽鑑賞の手引き 氷川まりこ (伝統文化ジャーナリスト)

能 楽は「現存する世界最古の舞台芸術」です。田植の神事などをはじめとする日本古来の芸能に、奈良時代に中国から伝わった「散楽」と呼ばれる芸能が融合して猿楽が生まれました。やがて猿楽は、仮面(能面)を用いた歌舞劇である能と台詞劇の狂言に分かれてゆき、室町時代初期、観阿弥・世阿弥親子の登場によって現在の私たちが観る能楽の大本が形づくられます。

おなじ根っこから分かれた能と狂言はセットで上演するのが基本で、現代では両者を合わせて「能楽」と呼んでいます。歌舞と台詞、シリアスとコミカル、静と動——能と狂言は表裏一体で、互いを補いあうことでひとつの世界を完成させます。

能舞台の背景はどの作品でも老松が描かれた鏡板のままで、複雑な舞台装置はありません。例えば「野原」と言ったとき、広いのか狭いのか、そこにはどんな植物が生えているのか、私たち観客の想像力にまかされていて、舞台には観る人ひとりひとりの景色が広がっているのです。作品の筋もシンプルで、物語の起承転結よりも、その奥底にある“思い”に目をむけて、普遍的な喜怒哀楽を描き出します。

どれだけ時代が変わっても変わることのない“人の心”を最大のテーマとしてきたからこそ、能と狂言は、700年近くに渡って、一度も途絶えることなく今日まで続いてきたのです。



能楽堂(能舞台)について

能楽堂は、屋根の付いた能舞台が大きな建物の中に入った形になっています。これは昔屋外で演じられていた名残です。

本舞台と橋掛りから成る能舞台は、昔から変わらぬ3つの特徴を持っています。1つ目は舞台が正方形であること。2つ目は橋掛りがあること。3つ目は客席の中に舞台が突き出ていること。この特徴は、横に長い、額縁のような枠の中に納まる一般的な劇場とは根本的に異なっています。



能面

能面のことを「面」と呼び、非常に大切に扱います。

面は老若男女、神、鬼など幅広い役で用いられ、種類も多様です。また面をかけずに素顔で演じることを「直面」と言い、演者は面をかけたつもりで演じます。

面はわずかな角度や光の当たり具合、そして演者の演技によって、泣いたり、ほほ笑んだり、怒ったり、無限の表情を見せることができます。

能装束

舞台衣装のことを「装束」と呼びます。色や模様を織り出したもの、刺繍や金箔・銀箔を用いたものなどがあり、華やかで手が込んだ意匠が表現されています。

役の性別・年齢・身分・職業などにより着ける装束が異なります(例えば、赤い色が入った装束は若い女性であることを表しています)。

演目解説

狂言 **仏師** (和泉流)

Bussbi

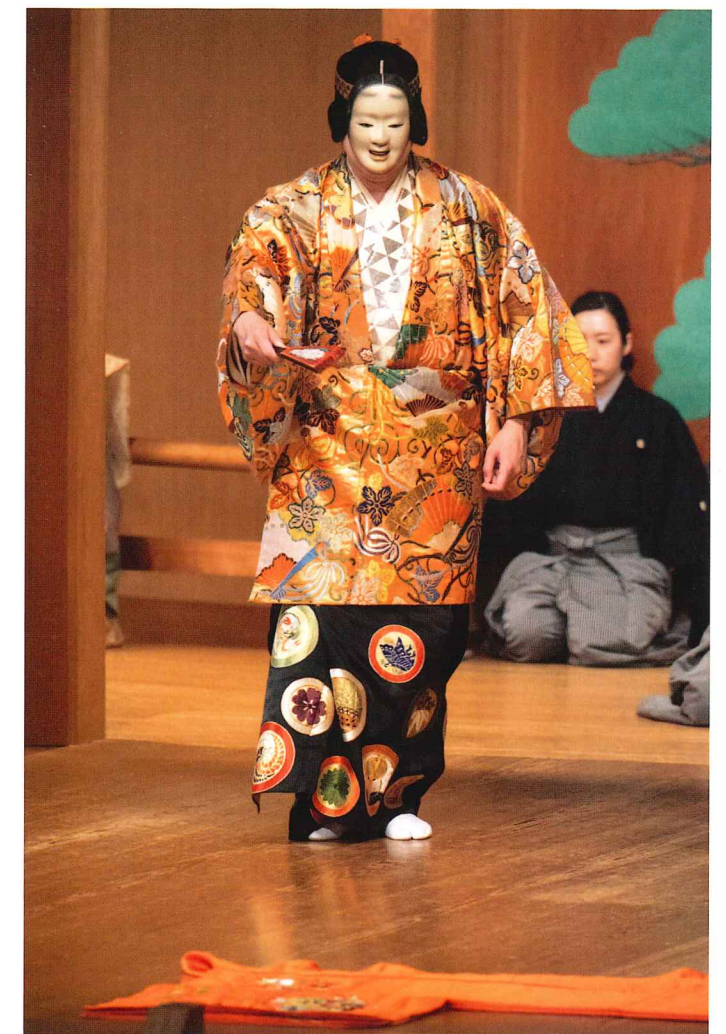
お堂に納める仏像を手に入れるため、田舎者は都へと出掛け、仏像を彫る仏師を探し回ります。そこにすっぱ(いたずら者)が現れ、仏師と名乗って田舎者からお金を騙し取ろうとします。すっぱは仏像を彫る代わりに、自ら仏像になりすましますが…。

都の賑やかな様子や、すっぱが仏師と仏像とに役をめまぐるしく替えるスピーディーな展開など、見る者を飽きさせない人気曲です。

能 **葵上** (観世流)

Aoi no Ue

光源氏の正妻、葵上は重い病に伏せています。帝に仕える臣下が巫女に命じて原因を探らせると、そこに現れたのは源氏のかつての恋人・六条御息所の生霊でした。御息所は華やかだった過去を語りますが、葵上のために今は愛する源氏の足が遠のいたと訴えます。そして葵上の姿を見るや、嫉妬のあまり打ち据えます。事態を重く見た臣下は修験者である横川の小聖を呼び、小聖が祈り始めると今度は鬼の姿に変じた御息所が現れます。しかし、祈りの法力に鬼の心を和らげ、御息所は成仏するのです。



能「葵上」観世喜正 撮影=芝田裕之